

寅さん歩 その14

東京に こんなところ-4



平野 武宏

首都東京は徳川幕府の江戸から明治維新、そして関東大震災・太平洋戦争の被災で壊滅から復興、昭和39年（1964年）の東京オリンピックによる街並み・交通網の再整備と時代と共にその姿を変えています。そして2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催に向けて、更に近代的な姿に生まれ変わろうとしています。「寅さん歩」で東京を歩き回っている寅次郎、「東京にこんなところもあるのだ！」と思わせる場所に出会い、感動しています。新シリーズとして取り上げ、紹介します。但し、都民暦約4年の「寅次郎基準」で選んでおりますので、ご容赦下さい。最寄り駅は代表例です。

～柴又帝釈天に寅さんもびつくりの彫刻～

〔帝釈天彫刻ギャラリー〕

葛飾区柴又 7-10-3 最寄り駅 京成柴又線 柴又駅

葛飾柴又は映画「男はつらいよ」の寅さんの故郷、ウォーキング大会で映画の寅さんと同じように全国を歩き回り、ペンネームに寅次郎の名を使わせていただいている平野寅次郎にとっても第二の故郷です。

寅さんの口上では「帝釈天で産湯をつかい、姓は車、名は寅次郎・・・」と言い、帝釈天の境内は寅さんの遊び場でした。

写真下左は二天門、右は寅さんが産湯をつかった御神水です。





写真上左は帝釈堂、右は帝釈堂を上がって右側のギャラリー入口。二天門は江戸最後の名匠 坂田留吉棟梁が日光陽明門を模したと言われます。帝釈堂も坂田留吉棟梁により創られ、人々の病をなくす「板本尊」が祀られており、「庚申の日」は賑わいます。帝釈堂内殿の外部は東・北・西の全面が装飾彫刻で覆われています。ガラスで囲まれ外からは全貌が見えません。入場料 400 円を払い、帝釈堂内に上り、彫刻ギャラリーを見たのは最近でした。「こんな素晴らしい彫刻があったとは」と感動の連続の平野寅次郎でした。写真だけでは十分に全貌を紹介出来ませんが、ご覧ください。大正 11 年（1922 年）～昭和 9 年（1934 年）にかけて加藤寅之助他 10 人の彫刻師が 1 面ずつ分担し制作しました。

2 階部分の彫刻は法華経説話で、上手に撮れたものだけ掲載します。



塔供養の図（法華経の演説の前触れ）



三車火宅の図（火から救出の三車）



法師修行の図（修行を励ます象）



龍女成佛の図（女性も成佛出来る）



病即消滅の図（病はたちどころに治る）



法師守護の図（修行する法師を守る）



左は常不輕菩薩受難の図
（人を輕蔑しないという修行をし
てきたが、却って迫害を受けた）

1 階部分の彫刻です。





帝釈堂と回廊で繋がっている「邃溪園」(すいけいえん)も彫刻ギャラリーの入場券で見ることが出来ます。休憩所もあり、座って素晴らしい庭園を観賞できます。



【こぼれ話】 寅さん左足のご利益



帝釈天から江戸川土手方面に行くと「寅さん記念館」があります。

映画「男はつらいよ」のセットや展示物があり、寅さんファンにとってはたまらない場所です。

写真上は記念館入口で看板を直している寅さんで、よく見ると右足の雪駄が下に落ちています。「左足の雪駄は落ちない！」と縁起を担ぎ、柴又駅前の「寅さん像」の左足を撫でるのが、いつの間にか、はやり出したようで、寅さんの左足はピカピカ（写真上右）になっています。

おすがりしたい気持ちは分かりますが、なんにでも、ご利益を求めたがる習慣には困ったものですね。

柴又駅前には寅さんを見送る妹さくらの像も出来るそうです。

映画「男はつらいよ」で車寅次郎を演じた渥美清さん(本名 田所康雄)は平成8年(1996年)8月4日68才で亡くなっています。「骨にしてから世間に知らせて欲しい」との遺言で、密葬後の8月7日家族から松竹へ伝え、訃報が公表されました。8月13日松竹大船撮影所で「寅さんのお別れ会」が行われました。政府は国民栄誉賞を贈りました。平成28年は没後20年です。寅さん、極楽で何をしていますか？

寅さん歩 その10 健康ご利益めぐり-15(葛飾区)を参照ください。

次回は新シリーズ 江戸・東京(23区)の百名山-1です。

平野 寅次郎 拝